

# 阿寒の森をフィールドとした環境教育の実践

北海道教育大学附属釧路義務教育学校（前期課程）校長 内 山 隆

担当者 登 藤 珠 実

## 1 趣旨 本校のESDの特徴

当校は、「豊かな心、創造性を持ち、自ら学び、ねばり強い意志をもつ 健康で明るい子供」の育成を目指している。環境教育においては、感受性を豊かにし、環境や環境問題に関する見方・考え方や、よりよい環境の創造のために主体的に行動できる実践的態度を育成することを目標としている。

当校の環境教育は、（一財）前田一步園財団が管理している北海道釧路市阿寒町の豊かな「阿寒の森」での自然体験学習をひとつ軸として展開している。阿寒の森と学校は約100kmの距離があるため、各学年バスを使用して、年に1～2回の訪問であるが、阿寒の森での活動を通して新たな疑問が生まれたり、課題を発見したり、学校の学習の課題解決の為に阿寒の森で活動するなど、阿寒の森での活動がプログラムのひとつの大きな軸となっている。2年生は生活科3年生から6年生は総合的な学習の時間と各教科の学習を関連付け、5年間の系統性をもたせた横断的・総合的なプログラムを目指している（更に今年度より本校は義務教育学校となったため、後期課程と連携し9年間の系統性を目指したプログラムの向上を目指しているところである）。阿寒の森での豊かな自然「体験」での感得と、学校での学びをつなぎ、子供たちの学びを実感を伴った「知」へと高めることを重要視している。

本プログラムは、平成22年度より（一財）前田一步園財団と共に開発を進めてきた。子供たちの豊かな学びのため、校内でのPDCAサイクルは基より、前田一步園財団の協力を得て毎年プログラムの発展向上に努めてきた。

## 2 活動全体計画と活動事例

公 教 育		学 校 の 教 育 目 標			各教科等との関連	
①日本国憲法 ②教育基本法 ③学習指導要領 ④社会的背景、社会的要請 ⑤児童の実態、教職員・保護者・地域の願い		個性と協働性を尊重し、 たくましく生きる人間 あかるくかしこくなかよくたくましい北国の子供			【国語科】環境に対する自分の考えを適切に表現する能力や相手の考えを正確に理解する能力を養うとともに、環境に関する様々な資料等から読み取ったことをもとに根拠を持って環境に対する考えを互いに交流し合おうとする態度を育む。	
環境教育の重点目標					【社会科】環境保全についての知識や理解を深めるとともに、環境問題を自分の問題として主体的に受け止め、解決に向けて自ら進んでかかわっていかうとする態度を育む。	
自分たちを取り巻く環境についての事物・現象に対して意欲的にかかわり、それらに対する感受性を豊かにし、環境や環境問題に関する見方・考え方や、よりよい環境の創造のために主体的に行動できる実践的態度を育む。					【算数科】自然環境や社会環境にかかわる様々な事象から情報を収集し、数量的・統計的にその事象をとらえる能力や表現力を育む。	
発達段階に応じた目標						
低 学 年	中 学 年	高 学 年				
自然の中で遊ぶ体験や動植物の飼育、栽培などの活動を行い、自然環境や事象に対する感受性や興味・関心を高めるとともに、原体験を拡大し、自然のすばらしさや生命の大切さを感じ得るようにする。	自然や身近な地域社会の環境に進んでかかわり、環境に対する問題を見だし、追究していくことができるようにするとともに、自分たちの生活が地域とかかわって成り立っていることを意識できるようにする。	体験活動や資料等の情報を通して、環境を多面的にとらえながら物の連鎖や循環という視点から、より主体的に環境とかかわり、環境を大切にすることができるようにする。	【理科】自然のすばらしさや生命の大切さを感じ得るようにするとともに、問題解決を通して環境に対する科学的な見方や考え方を育む。			
			【生活科】自分自身を取り巻く環境に対して興味・関心を持ち、環境と触れ合い、環境とのかかわりを深めるとともに、環			

阿寒湖畔における前田一步園財団との環境教育プロジェクト(活動事例)		特に関連がある教科等の学習		境に対する豊かな感受性を育む。	
第2学年(生活) 6・10月 ・阿寒湖周辺の森林での植樹体験 ・ボック周辺の散策や、エコミュージアムの見学 ・自然のものを利用して遊んだり、遊びに使うものを探したりしながら散策する活動 ・キノコなどの「秋さがし」		国語：図書館へいこう 算数：長さの たんい 生活：やさいをそだてよう つくってあそんでたのしいな 図工：すてきなもの いっぱい 道徳：3-(2)虫が大すき 特活：花いっぱいしよう	【音楽科】表現や鑑賞活動を通して、感動する心、共感する心などの豊かな感性と美的情操を養い、環境に対する豊かな感受性の素地を醸成する。 【図画工作科】自然の材料のよさや可能性、生かし方に関心を持つとともに自然に対する感受性や美意識を高め環境の価値を認識する。 【家庭科】環境と生活とのかかわりについて関心を高め、家族の一員として環境に配慮した生活ができる技能を身に付けるとともに、生活をよりよくしようとする意欲や実践的態度を育む。 【体育】健康と生活環境とのかかわりを理解し、健康の保持増進の立場から、自己の生活環境の改善を図ろうとする意欲や態度を育む。		
第3学年(理科) 7月 ・生物を愛護する態度を育てるとともに、昆虫の体のつくり、成長のきまり、昆虫とその周辺の環境との関係について理解するための昆虫採集		国語：はつとしたことを詩に書こう/生き物のとくちようをくらべて書こう/いろいろな手紙を書こう 道徳：3-(2)ケヤキのやさしさ	【英語科及び外国語活動】外国の文化に関心を持ち、尊重できる態度を育てるとともに、我が国の文化についての理解を深めることができるようにする。 【道徳】自然や動植物への愛護、生命に対する畏敬の念を育てるとともに、物を大切に、思いやりをもって環境の保全やよりよい環境づくりに主体的にかかわることのできる心情や実践的態度を育む。 【特別活動】集団の一員としての自覚を持ち、協力してよりよい生活環境を築いていこうとする自主的・実践的態度を育む。		
第4学年(社会) 10月 ・阿寒湖に注ぎ込む川に沿った散策 ・雌阿寒岳に降った雨や雪が長い歳月をかけて地下に浸透して湧き出している湧水の見学		国語：ポスターを使って発表しよう 音楽：にっぽんのうた 道徳：4-(5)徳べえざくら	【道徳】自然や動植物への愛護、生命に対する畏敬の念を育てるとともに、物を大切に、思いやりをもって環境の保全やよりよい環境づくりに主体的にかかわることのできる心情や実践的態度を育む。		
第5学年(理科) 9月 ・流れる水の速さや量、流れる水のはたらきと土地の変化との関係について理解するための川の様の観察 ・森林を守り育てていくことの大切さ、自然環境と人々の生活や産業とのかかわり、国土の保全に果たす森林の役割について理解するための森林を守り育てる仕事についての調査		国語：世界遺産 白神山地からの提言 一意見文を書こう 理科：台風接近 道徳：3-(2)一踏み十年 4-(4)ボランティアしてみよう	【道徳】自然や動植物への愛護、生命に対する畏敬の念を育てるとともに、物を大切に、思いやりをもって環境の保全やよりよい環境づくりに主体的にかかわることのできる心情や実践的態度を育む。		
第6学年(理科) 11月 ・人や他の動物、植物を取り巻く自然環境を幅広い視野でとらえ、人が自然に及ぼしてきた影響を理解し、自然を守るために自分たちでできる取り組みを行う活動 ・エソシカによる食害を防ぐための樹木のネット巻き体験等		家庭：わたしたちの生活と環境 道徳：4-(3)うちら猫の手ボランティア 3-(2)愛華さんからのメッセージ	【道徳】自然や動植物への愛護、生命に対する畏敬の念を育てるとともに、物を大切に、思いやりをもって環境の保全やよりよい環境づくりに主体的にかかわることのできる心情や実践的態度を育む。		
全学年(給食) 12月 ・「増えすぎたエソシカへの対策」を総合的に理解するための、被害、森林保護、捕獲、有効活用に関する話を聞く活動 ・エソシカバーガーなどのメニュー			【道徳】自然や動植物への愛護、生命に対する畏敬の念を育てるとともに、物を大切に、思いやりをもって環境の保全やよりよい環境づくりに主体的にかかわることのできる心情や実践的態度を育む。		

環境教育で身に付けさせたい能力や態度								
環境を感受する能力	環境に興味・関心をもち、自らかかわろうとする態度	問題をとらえ、その解決の構想を立てる能力	データや事実、調査結果を整理し、解釈する能力	情報を活用する能力	批判的に考え、改善する能力	合意を形成しようとする態度	公正に判断しようとする態度	自ら進んで環境の保全・保護に寄与しようとする態度

### 3 成果と課題

当校では、上記の通り、阿寒の森での自然体験活動をひとつの軸とした環境教育を通して、2年生では「自然環境や事象に対する感受性や興味・関心の向上」、3年生では「様々な生物の存在を実感し、環境に進んでかかわろうとする態度の育成」、4年生では「環境に対する問題を見だし追究する態度、自分たちの生活とのかかわりを意識し始めること」、5年生では「環境保全に対する意識の向上、自然に対する畏敬の念をもつこと」、前期課程の最終学年の6年生では「主体的に環境とかかわろうとしたりする態度を養うこと」を目指していく。今後も「総合的な学習の時間」を中心とした、他教科等との有機的な関連を図った教科横断的なプログラムとして編成できるように、また、義務教育学校として取り組みの改善にも努めていく。最後に、コロナ禍においても子ども達の学びを止める事なく実施出来ているのは、一重に地域の方や保護者の皆様、子ども達の学びを支えてくださっている方々の御理解・御協力によるものであると強く感じている。